

沖縄戦の歴史歪曲を許さず、沖縄から平和教育をすすめる会 第2回総会アピール

沖縄戦の真実を後世に伝えようとする私たちの願い、運動を阻もうとする勢力が台頭しています。2006年12月に結成された本会は、「大江・岩波訴訟」と「教科書検定問題」という、沖縄戦の実相を歪曲しようとする動きに対して、それを許さない取り組みをすすめてきました。

2005年、大阪地裁で始まった大江・岩波訴訟は、渡嘉敷・座間味島の元戦隊長らの名誉毀損を訴えながら、本当のねらいは日本軍の「集団自決」命令・強制を否定し、日本軍全体の名誉回復を目論んだものです。日本軍の命令・強制によって多くの住民が「集団自決」に追いやられたという沖縄戦の真実を正しく後世に伝えるために、私たちは会の結成当初から様々な活動に取り組みました。署名呼びかけ、傍聴支援、公判前集会、報告集会などを幾度も行い、裁判所に「沖縄戦の実相を歪めてはならない」「公正な審理を行ってほしい」という県民の声を届ける役割を果たすことができました。さらに、この過程で全国にこの問題を広げ、つなげる役割を果たし、渡嘉敷島、座間味島の「集団自決」の真実を明らかにしていくことができたことも大きな成果でした。

また、2007年3月には高校用歴史教科書から日本軍による「集団自決」強制の記述が削除される事が明らかになりました。私達はこの問題に関しても、いち早く問題点を整理、指摘しながら「教科書検定意見の撤回」「記述回復」という運動の一致点を打ち出して、広く県民世論/国民世論を喚起する取り組みを行ってきました。こうした取り組みは、9月29日の県民大会への運動の筋道をつけるだけでなく、文部科学省主導で審議会が進められているなどの教科書検定制度自体の矛盾を明らかにするという成果を得るまでに至りました。

いうまでもなく、このような私達の取り組みを支えるのは、これまで重い口を開いて戦争の真実を語ってこられた戦争体験者の方々や、その蓄積を土台にした沖縄戦研究の成果にあります。憲法の改悪ともリンクした「戦争のできる国づくり」をすすめようとする勢力による「日本軍の名誉回復」のために歴史がわい曲され、戦争体験者の証言や沖縄戦研究の成果が踏みにじられようとしていることに、私達は強い憤りを覚えます。そして、これは沖縄だけの声ではなく、全国に広がってきています。全国から多く励ましの声が私たちに寄せられたこと、多くの署名が寄せられたことからそれは明らかです。

さて大江・岩波訴訟の第一審判決が今年3月28日に出される予定です。原告らは法廷を舞台に沖縄戦の実相をわい曲する動きを強めていくでしょう。また、文部科学省は新たな「日本軍からの命令を裏付ける」証言や、研究の成果を無視する形で、昨年末に教科書検定審議会を開き、「集団自決」に関する記述を増やすということで、事態の幕引きを図りました。これにより、県民の総意である「検定意見の撤回」「記述回復」は未だに達成されていません。さらに、2008年度には再度教科書会社からの「訂正申請」が予想されるだけでなく、小学校用教科書の編集も行われます。こうした現状をあらためて確認しながら、沖縄戦のわい曲を許さない取り組みをさらにすすめるために、次の点を広く県民に呼びかけます

- 一．大江・岩波訴訟の一審判決を注視し、判決確定まで裁判の支援活動に取り組みましょう。
- 一．引き続き、文部科学省に対し、検定意見の撤回と記述の回復を求めていきましょう。
- 一．戦争体験者の証言・沖縄戦研究の成果に基づき、沖縄戦の真実を教科書に載せるための活動に取り組みましょう。
- 一．近な地域/戦争体験者の掘り起こしをすすめ、沖縄戦の全体像を明らかにする活動に取り組みましょう。

2008年2月25日

沖縄戦の歴史歪曲を許さず、沖縄から平和教育をすすめる会第二回総会参加者一同